

次代を担う産業育成対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>開 会 午前 9時58分 平成30年12月19日 閉 会 午前11時58分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>企画経済委員会室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 岩井豊太郎 副委員長 佐藤武彦 委員 玉田和浩 渡辺嘉山 水野正敏 (小原尚) 田中勝士 高殿尚 国枝慎太郎 恩田佳幸 ()は欠席委員</p>
	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>課長補佐 此島祐司 係 長 市川圭司</p>	

5 会議に付した案件	
件名	審査の結果
<p>1. 参考人招致</p> <p>(1) スマート農業の現状と展望について 参考人 農業生産法人アグリード株式会社 代表取締役 安藤重治 氏</p> <p>(2) 土木工事現場におけるICT活用の現状と展望について 参考人 株式会社新井組 代表取締役社長 新井裕輔氏 営業課長 稲越 崇氏</p> <p>2. その他</p>	

6 議事録（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

少し定刻より早いですが、ただいまから、次代を担う産業育成対策特別委員会を開会する。小原委員からは欠席の連絡を受けている。また、林秀治氏の傍聴を許可したので予めお知らせする。

本日の委員会は、今年度調査項目としている「県内産業に関する調査」ということで、農業生産法人アグリード株式会社代表取締役の安藤重治氏、株式会社新井組代表取締役社長の新井裕輔氏の2名の参考人を招いて開催する。

まずはじめに、スマート農業の現状と展望について安藤氏より報告をお願いする。質疑については、ご報告終了後をお願いする。

（説明 参考人 安藤重治 氏）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対して、何か質問等はないか。

○田中勝士委員

かなり設備投資が大変ではないかとの感想を持った。田植え機などは毎年買い替えるとのことだが、経営的にはどうか。

○安藤参考人

当社は農機1台で作業する方針である。1品種だけを作って、田植えを1週間で終える必要があれば、3人で作業して3台の田植え機が必要となるが、品種構成を工夫し、1台で作業しているため、3台持っていて3年で更新する場合の費用と変わらない。また、最新の機械を乗りたい、見せたいという思いもあって1年で更新しているが、最新の機械は、年数が経過した農機に比べて、修繕費があまりかからないという利点もある。

○田中勝士委員

経営全体での採算性はどうか。

○安藤参考人

家族経営から法人となり、稲作だけではなく、小麦や大豆なども栽培し、需要と供給のバランスも考慮した作付けをしている。耕作面積が増え、売り上げも伸びており、それに見合う利益も出ている。国の助成金も活用している。

○玉田和浩委員

現在120haを管理している中で、いかに収穫量を上げるかが課題だと思うが、土壌診断などはどうしているのか。

○安藤参考人

土壌診断ができる業者にサンプルを出して調査している。

○玉田和浩委員

120haのうち生産性の悪い田もあると思うが、そのあたりはどうか。

○安藤参考人

多収性の品種を植えている。ハツシモなどは収量性で劣るが、ニーズがあるので作っている。

○玉田和浩委員

面積が増えれば手間も増えるため、生産性・単価を上げる必要があると思うがどうか。

○安藤参考人

従来は、生産性の良いほ場と悪いほ場に問わず均一に作業を行っていたが、データにより、生産性の悪いほ場を特定できるようになったので、生産性の良いほ場にかけていた費用を、生産性の悪いほ場にかけてられるようになった。

○水野正敏委員

1人作業で、50日間で田植えするのは可能かもしれないが、天候不順もある中で95日間で稲刈りを終えることは可能なのか。

○安藤参考人

1台で1人作業を基本としているが、サブ機も持っており、いざという時に使用することもある。また、主食用米を優先して適期に収穫し、天候を見ながら飼料用米の収穫で調整している。あとは小麦の作付けで調整する。

○水野正敏委員

冬にキャベツを作る理由は。

○安藤参考人

12月中旬から1月いっぱいまでの間に収穫できる作物ということで冬キャベツを生産している。春と秋は非常に忙しいが、冬は収入が無い中で従業員を雇っているので、冬の時期にも8時から17時まで働いていただくためにやっている。同じ理由でのし餅、切り餅の加工などもやっている。

○高殿 尚委員

大事なのは蓄積したデータの積み上げと分析だと思うが、何年で利益が出ると思うか。

○安藤参考人

まずは自身の現状分析が必要だと思う。私が作成しているような予算書など、互いにデータを共有することができれば1～2年でできると思う。

○高殿 尚委員

スマート農業に取り組む農業事業者として、行政に対して、どのような支援を望むか。

○安藤参考人

今は採算がとれているが、今後、担い手が減り、採算の合わない農地を借り受けたり、災害もあるかもしれない。今も支援を受けているが、スマート農機が高価になってきていることから、農機導入の支援があるとありがたい。

○高殿 尚委員

平地のスマート農業と中山間地域でのスマート農業との違いは何か。

○安藤参考人

今まで中山間地域ではGPSの電波に補正が必要であった。現在は、中山間地域も自動で補正ができるようになってきているため、非効率で離農者が多い中山間地域でこそスマート農業が活用できるのではと考える。

○佐藤武彦副委員長

県内ではどれくらいの方がスマート農業に取り組んでいるのか。

○安藤参考人

岐阜県稲作経営者会議青年部の中では、45歳未満の若い経営者は何かしらスマート農業を取り入れていると思う。

○佐藤武彦副委員長

県として補助金はどれくらい出しているのか。

○足立農業経営課長

農業経営課では集落営農組織等に対し8,000万円ほど出している。

○土屋農産園芸課長

農産園芸課では、元気な農業産地構造改革支援事業により園芸関係全般で4億2,000万円。そのうち、稲作関係で5,000万円ほどが別枠としてあり、トラクターやコンバインなどの導入を支援している。残りの3億7,000万円からも水田農業に支援している。

○岩井豊太郎委員長

ほか、質疑はよろしいか。

(発言する者なし)

○岩井豊太郎委員長

次に、土木工事現場におけるICT活用の現状と展望について新井氏より報告をお願いする。質疑については、ご報告終了後をお願いする。

(説明 参考人 新井裕輔氏、稲越崇氏)

○玉田和浩委員

ICT活用の工事を施工する際に必要となる3次元設計データは、施工者が作成するのか。

○稲越参考人

施工者が作成する。

○玉田和浩委員

発注時に設計が3次元化されていると施工の準備が簡単だと思う。設計を3次元化する際の費用は。

○稲越参考人

3次元化するためのソフトの購入に約200万円かかる。ただし、ソフトの費用は一度に全て支払うわけではなく、リースで分割して支払う方法もある。県からソフトを貸し出してもらえると良いと思う。

○新井参考人

ドローンを飛ばして3次元設計データを作成し施工管理まで全て自社で実施することは難しく、外注

している会社が多い。外注すると、設計変更が生じた場合に時間と費用がかかる。全国的にも稀であるが、当社はこれらを全て自社で行うことで生産性を上げており、これが本来のi-constructionだと考え取り組んでいる。

○田中勝士委員

今後、業界としてどのような人材が必要になるのか。

○新井参考人

専門技術者として現場監督は当然必要だが、重機オペレーターや型枠大工、石工等の技能者が減ってきているため人材の確保が必要と考える。高齢化が進む中で若者が建設業界へ入職してくれないため、技術者の高齢化も進んでいる。

○田中勝士委員

熟練技能者が業界全体で不足しているのではないかと感じている。重機オペレーターはスマート化技術で補えるという事になると、3次元データやICT技術を扱える人材が必要となる流れになるのか。

○稲越参考人

そのとおり。ICTを知っている学生が少ないので、まず学校の先生に技術を学んでもらうことが必要だと考えている。県教育委員会から、3次元データやICT技術に関する問い合わせをいただき、近日、当社が土木と農業関係の高校の先生方を対象に、これらの技術の活用についての講習会を行うことになっている。

○田中勝士委員

以前、この特別委員会で金型業界について話を聞いたときに、スマート技術の普及により、金型を削る職人よりも、データ処理ができる人材が求められているという話を聞いた。土木業界でも同様であると感じた。

○佐藤武彦副委員長

道路の3次元データ化を進めていかなければいけないと思うが、現状の進捗は。

○新井参考人

弊社のように、工事で3次元化に取り組んだ現場では、成果として発注者に3次元データを納品しているが、当初発注の設計データは3次元化されていない。ICT工事の導入が進めば、発注者から受注者へ3次元設計データが提供されるようになると思う。

○佐藤武彦副委員長

最初に工事現場の地形を3次元化し、それを活用して工事用の3次元設計データを作成するとのことだが、3次元設計データを作成するには県の対応が必要なのか、それとも施工者のみで作成できるのか。

○新井参考人

施工者が技術を持っていれば、施工者のみで3次元設計データを作成できる。県が設計業務を発注する段階でコンサルタント会社に3次元設計を依頼すれば、施工前の情報収集が速やかにできると思う。

○佐藤武彦副委員長

自動車業界など、ほぼすべての産業で3次元化が進んでいる。今後、建設業界でも進めていく必要がある。

○岩井豊太郎委員長

I C T技術を用いた工事を発注する時の条件は。

○新井参考人

発注者指定型の場合は、発注段階でI C T施工の歩掛が適用されることが条件である。また、施工者希望型の場合は、契約後にI C T施工の歩掛等が採用される。

○岩井豊太郎委員長

ほか、質疑はよろしいか。

(発言する者なし)

○岩井豊太郎委員長

質問等も尽きたようなので調査項目については終了する。なお、本日の議題は終了したが、この際、他に何かご意見等はあるか。執行部、よろしいか。

(発言する者なし)

○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

次代を担う産業育成対策特別委員会 配席図

平成30年12月19日(水)10:00～
企画経済委員会室

			小木曾 産業技術課 IT利用促進室長	大野 産業技術課 研究開発企画監	大橋 農政課 技術総括監			
参考人随行者席	参考人随行者席	渡辺 新産業・エネルギー 振興課長	梅村 産業技術課長	板津 商工政策課長	土屋 農産園芸課長	森 畜産課長	西村 農地整備課長	小原 技術検査課 建設技術企画監
参考人席	参考人席		増田 商工労働部次長 (産業人材担当)	井川 商工労働部長	國島 商工労働部次長兼東京オリンピック ク・パラリンピック県産品活用促進 総括監	小野寺 農政課長	足立 農業経営課長	林 技術検査課長

